令和３年度　第３回学校運営協議会（兼　高校魅力化推進事業地域連携組織）　議事録

日時　令和４年２月２２日（火）13:30～16:00

場所　岡山県立勝間田高等学校　記念館３階会議室

（委員１５名のうち１３名が出席、欠席者のうち１名は書面にて意見表示）

１　開会行事

（１）校長挨拶

（２）会長挨拶

（３）事務局より

２　令和３年度　学校運営に関する評価

　（１）教育活動報告

　　　　　・生徒募集の状況

　　　　　・第２回学校運営協議会以降の行事報告

　（２）資料説明

　（３）質疑応答

　　　【議長】

新しく導入したレーザー加工機はどんなことができるのか。１２０％くらい使いこなしていただきたい。

　　　【高校】

　　　　　２千数百万円くらいするものが導入された。２月２５日に使い方のレクチャーがある。

　　　　　キャンプ用のテーブル（厚み２㎝）なども作ることができる。農場特別会計制度を利用して、製品を製作し、販売できればと考えている。

　　　【議長】

　　　　　魅力化につながれば。

　　　【委員Ａ】

　　　　　入学希望者数が減ったのは、何か理由が傾向的にあるのか。

　　　【高校】

　　　　　傾向として普通科志向になっている。商業高校は７～８割が進学し、工業高校は就職または専門学校への進学している状況である。津山市内の高校は倍率が１倍以上になっている。「行ける」学校から「行きたい」学校へとシフトしてきている。学校施設をどのように生かしていくか。農業に明るい未来、就職先、道があれば。

　（４）学校評価

　　　　　・学校評価書

　　　　　・予算執行状況

　　　【議長】

　　　　　学校自己評価アンケート結果について、生徒と教員と保護者でばらつきがあるのが気になる。

　　　　　やっているつもりが、生徒からは「できていない」と受け止められている。逆もある。働き方改革もあるが、どこまでやればよいか。ばらつきがあるあたりの差がなくなれば。個々の先生が重荷に感じず、「チーム勝間田」として、力を合わせてやっていただきたい。

　　　【事務局】

　　　　　本日欠席の（委員Ｂ）より、学校評価書の１　学力向上の３つ目の評価は、生徒の満足度が８０％と高いので、ＢではなくＡでもよいのでは。と御意見をいただいている。

　　　【議長】

　　　　　私もそう思う。１　学力向上は上からＢ、Ｂ、Ａ、全体Ｂでよいと思う。

　　　【委員Ａ】

　　　　　学校評価書の２　生活習慣の確立の３番目の評価は、コロナ禍で部活動ができていないのにＡになったのはなぜか。

　　　【高校】

　　　　　これは、スクールミーティングを基軸とした生徒会活動ができているからである。

　　　【委員Ｃ】

　　　　　学校評価書の２　生活習慣の確立の４番目について、ロッカールームの使用状況が悪く、ロッカーの破損も多いとはどういうことなのか。

　　　【高校】

　　　　　カギをかけていない生徒がいる。また、封鎖しているロッカーを勝手に使っている生徒がいる。ロッカーは上下２段になっているが、下の段の生徒が扉を蹴って閉めていることがある。

　　　【議長】

　　　　　評価は教員サイドではなく、相対的な評価をお願いしたい。

　　　【委員Ｄ】

　　　　　ロッカールームの状況等を生徒はどう思っているのか。生徒も技術を持っているのだから、生徒が直すなど、相関性があるとよい。スクールミーティング等でそのあたりを考えていければ。評価は先生が付けているから、これでよい。

　　　【議長】

　　　　　２　生活習慣の確立は、このとおりでよい。

　　　　　３　進路実現も自己評価どおりでよい。

　　　【委員Ｅ】

　　　　　学校評価書の４　情報発信・広報は、自己評価アンケートでは評価は下がっているので、Ａ評価は高い。Ｂ以下でよい。

　　　【委員Ｆ】

　　　　　今年度は中学校への学校説明会へ地域協働活動コーディネーターが行ったので、今までと比べて違いがあるのでは。

　　　【委員Ｇ】

　　　　　確実に違いがあると思う。中学校の受け止め方は違っているのでは。勝間田高校への希望は出ている。一方で長年のイメージや先入観は残っている。地道に続けていくことが必要。

　　　【委員Ｈ】

　　　　　中学生はしっかり聞いてくれた。Instagramを見て、印象は変わってきている声を聞く。

　　　【議長】

　　　　　４　情報発信・広報の４番目の評価は、自己評価のとおり４でよい。

　　　　　令和４年度に向けて、提言などはありますか。

　　　【委員】

　　　　　とくになし。

３　令和４年度学校運営基本方針協議

　（１）令和４年度学校経営計画書（案）

　　　①説明

　　　②質疑応答

　　　【議長】

　　　　　学校経営計画書　Ⅲ　学校内外の環境分析について、弱みにある「教員の多忙感・疲弊感」が気になる。

　　　【委員Ｉ】

　　　　　「こういう生徒を育てたい」という、変化が大きい時代であるからこそ生徒にどういう力をつけてやりたいかを明確化し、強いところを伸ばしていくことが必要。あたりまえがなくなる（募集停止する）ことを考えると、ぞっとする。

　　　【校長】

　　　　　本校の強みに「学校運営協議会がある」を入れたい。役割を分担して、目標を達成したい。

　　　　　身につけた知識・技術から、活用力・実践力・人間力がつき、自己実現を果たすことができる。企業の声を届けることも必要。本校で行っているジョブフェアを中学校へも広げたい。また、オープンファクトリーとジョブフェアをリンクさせたい。

　　　　　学校の中だけでの意見ではなく、運営協議会の意見も盛り込みたい。

　　　【委員Ｊ】

　　　　　自分のできることで貢献したい。生徒1人ひとり違うので、好きなこと、できること、したいことは何かを、先生と一緒に話し、目標設定をしてもらいたい。

　　　　　親は子どもがかわいいが、一歩外に出ると守ることができない。だから、法律を守らせる、時間を守らせることが必要になる。社会では遅刻は許されない。会社見学では、社員の服装を見てほしい。服装を正すことは安全のために必要である。そのような教育を家庭とともに進めてほしい。

　　　③承認または修正

　　　【議長】

　　　　　前向きな表現に変えてみてはどうか。内容としては承認する。表現を変えて作成をお願いしたい。

　（２）令和３年度主要事業決算（案）

　　　①説明

　　　②質疑応答

　　　　　なし

　　　③承認または修正

　　　　　承認

　（３）令和４年度主要事業予算（案）

　　　①説明

　　　②質疑応答

　　　【議長】

　　　　　県の配分のとおり、学校運営協議会の意見が反映できるのなら、もう少し早い時期に「こんなことをしたい」という事業計画に対して、学校運営協議会が意見を示したら良いのでは。

　　　【校長】

　　　　　これだけの予算があるから、こんなふうに使ったらよいという、アドバイスをいただきたい。

　　　【学校】

　　　　　予算の有効活用法の意見をいただきたい。

　　　③承認または修正

　　　【議長】

　　　　　生き残りのために、こんな事業をしたい、等の要望は言うべきとは思う。令和４年度はこれで承認する。令和５年度に向けては少し考えてほしい。

　（４）令和５年度教育課程（案）

　　　①説明

　　　②質疑応答

　　　【高校】

　　　　　資料は令和４年度のものである。定数減により、７名の教員減少となる。その結果、このままの教育課程では教員平均持ち時間が２５～２６時間となり、５つの系列を維持できない。系列を減らすより、こんな系列を作ったらよいという意見・助言をいただきたい。校内でも議論中である。

　　　【議長】

　　　　　どういう学びがあるとよいか、委員のみなさんから令和４年度の第１回学校運営協議会で意見をいただければと思う。

　　　【委員Ａ】

　　　　　自然保護、環境保護、ＳＤＧｓの内容が関心あるのではないか。農業経営、アグリビジネスも農業を仕事としてやっていくために必要である。

　　　【委員Ｋ】

　　　　　生徒が農家に行った際に興味を持っている新しい農業「スマート農業」が見えるような系列はどうか。

　　　【委員Ｇ】

　　　　　「選べる」というのが生徒たちには魅力である。生徒の興味は多様化している。あれもこれもできるのがよい。系列のしばりが弱いのがよい。学んだことが将来こんなことに生かせる、身につけられる、というのが、生徒たちを引きつけるのでは。

　　　　　中学校としては、高校入学時から卒業した生徒が－１２名というのが気になる。中学校でこんな進路指導をしてほしい、という意見をいただけるとありがたい。

　　　【委員Ｄ】

　　　　　他県ではで出口戦略、進路戦略をどうしていくかを考えている。企業と生徒のイメージのギャップを埋める、資格を取るとこれだけの仕事ができる、というのを教えることが必要である。資質能力とのマッチングをし、地域で人材育成をしていく。内閣府や文部科学省は起業化や知的財産が取り上げられている。新しいビジネスを生かすオールマイティなものが求められている。

　　　【議長】

　　　　　どう生かしていくかが大事である。企業も、内部の紹介、社員の働きの様子を知ってもらう活動をしている。

　　　　　令和４年度の第１回学校運営協議会で再度審議をする。

４　職員の任用に関する意見

　（１）本校教育の魅力づくりを進めるために必要な教員の配置について

　（２）本校教育の魅力づくりを支えるための人材雇用予算について

　　　【学校】

　　　　　未定だが、５つの系列を維持していくために、専門科の教員の確保が必要である。また、コーディネーターには教員でなくてもできる仕事をと考えている。

　　　【委員Ａ】

　　　　　和気町では町の予算で増員をしていると聞いている。勝央町ではどうなのか。

　　　【議長】

　　　　　ミスマッチが起きてはいけない。和気町はどういうふうにしているのか。

　　　【委員Ａ】

　　　　　和気町は業務内容を明確化している。ドローンは魅力的である。地域協力隊として、ドローンが使える人を採用するなどできるのでは。

　　　【議長】

　　　　　事業内容による。生徒たちが興味を持つもの、６次産業などにつながるものを。

　　　【委員Ｌ】

　　　　　予算は他に下りるところはないのか。

　　　【校長】

　　　　　農林水産省の森林税の活用は県内ではおそらく本校だけである。だから効果的に使う必要がある。

　　　【議長】

　　　　　県立校なのでどうしようもないこともあるが、意見を取り入れて、再編成していただければと思う。

５　高校魅力化推進事業について

　　　【委員Ｅ】

　　　　　手探りの状態である。生徒や教員との関わり方やコロナ禍での活動で制約がある。先生方の意識改革も必要である。

　　　【委員Ｈ】

　　　　　生徒との直接的な関わりが少なかった。

今年度は中学校への学校説明会への参加、創立１２０周年記念式典での司会を行い、職業性を生かすことができた。今後も地域や学校とのつながりを持っていきたい。

　　　【議長】

　　　　　してみたいことは。

　　　【委員Ｅ】

　　　　　総合的な探究の時間の活動内容を発信したい。今年度は時間が限られており、できなかった。

　　　【委員Ｉ】

　　　　　Instagramでは知らないことが紹介されている。フォロワーが少ないので、１０００人を目指してもっとＰＲをする必要がある。商工会との連携など、できることをしていきたい。

　　　【議長】

　　　　　要望として県へも報告したい。

６　情報交換等

　　　【高校】

　　　　　セーブジャパンプロジェクト（自然保護活動）として、自然体験プロジェクトや岡山市内の親子を演習林へ招待、先生の魅力が伝わるＳＮＳ発信などを計画している。

　　　【議長】

　　　　　先生方の魅力発信はおもしろい。

　　　　　本日は貴重な意見をありがとうございました。

７　閉会行事

　（１）校長より

　（２）事務局より

　　　　　委員の任期は１年だが、再任は妨げないため、３月に打診